



2022 年 12 月 5 日

左心耳閉鎖システム(Watchman) 実施認定施設

ご担当科責任者 各位

実務ご担当者 各位

日本循環器学会
左心耳治療ワーキンググループ長
山本 一博

Watchman 留置術における留意点について

平素より、J-LAAO への登録のご協力、ありがとうございます。

Watchman 留置術における留意点について、全施設に注意喚起させていただいた方が良いと思われる事項がありましたので、ご連絡いたします。

本施術を安全に施行するために、以下の点にご留意をお願いいたします。

記

Watchman 留置術における留意点について

Watchman 留置術に伴い、心房壁の穿孔を合併することがあります。

これに伴う出血では遅れて血行動態が崩れる可能性があるため、まずは早期のドレナージおよび開心術を含む諸々の急変対応の準備をおこなった上で、手技継続の可否を判断してください。

出血の原因が左心耳穿孔であることが明確な場合は、デバイスを左心耳入口部に留置することで出血をコントロールできることもあるので、穿孔に気づいてすぐにデバイス留置が可能な段階にある際の手技継続は許容される場合もあると思われますが、出血コントロールのために手技を中断してヘパリンを中和することを優先すべきか、適切な判断を心掛けていただければと存じます。

なお、左心耳穿孔の場合であっても、穿孔が生じて以降も延々と手技を継続することは穿孔部の拡大などさらに状態を悪化させる可能性があることは念頭に入れてください。

以上